

報道関係各位

ミニパネル展『秩父と皆野の武士』の開催

● 本展の背景と趣旨

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放映により、鎌倉武士ゆかりの場所や文化財への関心が高まっている。埼玉県でも畠山重忠ゆかりの場所である深谷市をはじめ、多くの市町村がイベントや企画展を催している。

現在、本町教育委員会では「みなとの学」の推進に努めている。本町及び郡内の歴史や文化を理解するための一環として、秩父郡内と本町にゆかりのある武士を紹介するミニパネル展を開催する。

- ・期間 : 9月5日(月)～30日(金) ※平日(月～金曜日)のみ
- ・場所 : 役場庁舎内ロビー
- ・時間 : 8時30分～17時15分

● 本展の内容

本展では、「高家」秩父氏と「党の者」と呼ばれた児玉党、丹党を紹介する。

秩父氏は桓武平氏の流れを汲み、秩父氏館を本拠として牧の経営で郡内に大勢力を形成した武士団で、後に畠山重忠など鎌倉殿を支えた有力御家人を輩出した。また、妙見信仰など新たな文化を秩父へもたらした。

児玉党と丹党は本町を含め郡内各所に所領を有し、先祖相伝の地を名字とした。この内、秩父氏と婚姻を含め関係を結んだ児玉党の一派は平姓児玉党と呼ばれ、町内にも勢力があった。大浜や大淵等、現在の大字名を冠する一族がいる。丹党は現秩父市を中心に、長瀬町にも勢力を有した。中村氏は秩父神社神官として神社造営や流鏑馬等の行事の運営に携わった。

本展では「吾妻鏡」、「秩父神社文書」等の古文書、「武蔵七党系図」を中心とする系図、また「平有行の実名板碑」等の町内文化財をもとに、多様な武士の姿を追う。

【問い合わせ】

教育委員会事務局(局) 社会教育担当 担当名 望月

電話 : 0494-62-4563 FAX : 0494-62-2791



ミニ
パネル展

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放映

「秩父と皆野の武士」

「平有行実名板碑」(町指定文化財)

期間 令和4年9月5日(月) ～ 30日(金) ※平日のみ
時間 8時30分 ～ 17時15分
場所 役場庁舎内ロビー

皆野町教育委員会

社会教育担当

デジタルミュージアム編さん室

TEL : 0494-62-4563

※企画展の内容はデジタルミュージアムにも掲載します。

<https://www.town.minano.saitama.jp/haikunomachi/>



「秩父と皆野の武士」

畠山重忠のルーツである秩父氏と、鎌倉殿を支えた党の者共

◎ 本展示について

本展では、現在放映されているNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に合わせ、郡内と本町にゆかりのある武士を紹介します。展示は2つから構成されます。

1つ目は「坂東八平氏」の祖であり、郡内に大きな勢力を形成した高家秩父氏。畠山重忠は同氏の流れを汲みます。本展前半では系図などをもとに、同氏について観します。

2つ目は郡内各地に所領を持ち、多くの合戦で活躍した党の者と呼ばれる中小武士。大浜氏や大洲氏など、町内にもその名が見られます。展示後半では、古文書や文化財をもとに、これら武士の姿に迫ります。

◎ 本展示の章立て

第1章 秩父ゆかりの武士のプロフィール

1・1 高家の武士と党の者

1・2 秩父氏・児玉党・丹党

第2章 郡内の党の者共

2・1 古文書から見る郡内の武士

2・2 町ゆかりの武士

◎ 表紙：「平有行の実名板碑」（町指定文化財）

長さ54cm、幅30cm。2つの種子の上に蓮座が見え、阿弥陀を中央に観音、勢至両菩薩が配される阿弥陀三尊と考えられる。正和五年（1316年）九月八日の年銘があり、平有行という俗名が刻まれる。『武蔵七党系図』によれば、有行は、秩父重綱の養子となった児玉経行の子・行高の流れを汲む大洲氏の子孫である。

5 分で
解説

ミニ
パネル展

「秩父と皆野の武士」



◎ 武士とは何か

- ・平将門の乱で馬に乗り、弓を射る「**兵**」が活躍。
- ・**国衙領**や**荘園**、**牧**で力を蓄え、朝廷や武士棟梁と関係をつづ。
- これが「**武士**」で、**先祖代々の所領**を有し、地名を**名字とした**。

◎ 武士にはどのようなものがある？

(1) 「高家」と「家」

- ・天皇の血筋を引く軍事貴族には、国司任命などの後、東国に土着した者がいた。このような**高貴な出自の武士が「高家」**。
- ・幕府内では北条や三浦など、「**家**」**単位**で呼ばれた武士がいた。いずれも幕府内の要職を占めた有力御家人。

(2) 「党」

- ・各家が**平等**で、**血縁・地縁で結ばれた一族が「党」**。
- ・「**武蔵七党**」は武蔵国の主要な党。郡内に**丹党**、**児玉党**。

◎ 郡内の武士の経済基盤

- ・水田に適さない秩父では、段丘を利用した**牧場（牧）**が発達。
- ・**秩父牧**があり、「**阿久原牧**」と「**石田牧**」で構成。

◎ 秩父と皆野の武士

(1) 秩父氏

- ・桓武天皇の流れである**平良文**が祖。**坂東八平氏**を形成。
- ・**武基**、**武綱**は**牧を経営**して**秩父氏館（現秩父市下吉田）**を築く。
- ・**重綱**の代に秩父から大蔵館（現嵐山町）へ進出。大蔵合戦を経て**畠山氏**・河越氏などが活躍。

(2) 児玉党

- ・「**阿久原牧**」（**現神川町**）に本拠。後に児玉郡一帯に勢力を拡大。
- ・重綱は児玉党の娘と結婚。また**行重**と**行高**を養子に迎える。
- ・行重と行高の子孫は**秩父・平**を名乗る。**町内に大浜・大淵氏**。

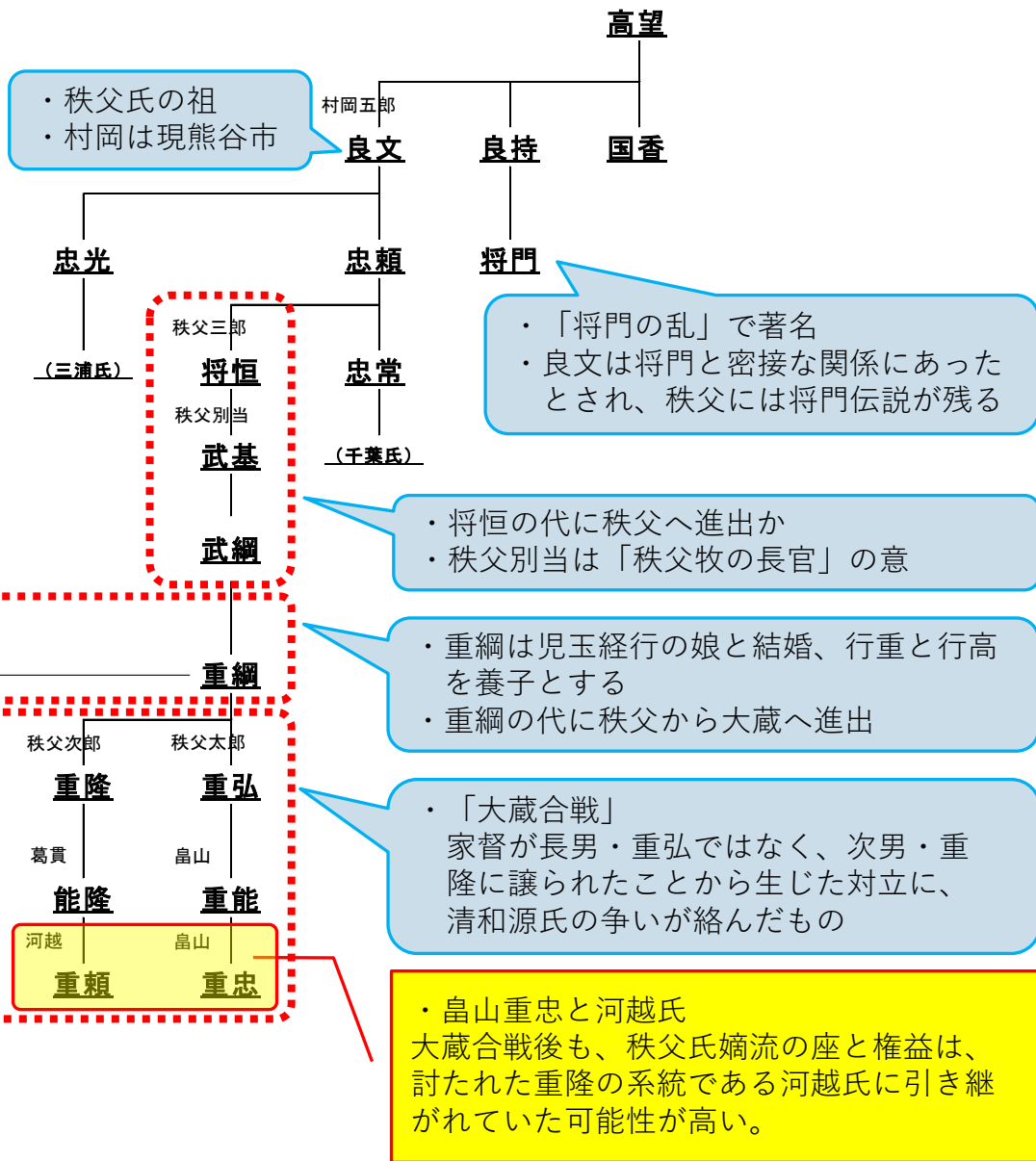
(3) 丹党

- ・秩父氏とともに「**石田牧**」（**現長瀬町**）を経営。
- ・秩父神社一帯に丹党**中村氏**。神官として行事の運営にあたる。
- ・長瀬町には**白鳥庄（荘園）**があり、丹党**岩田氏**が出る。

◎図説：秩父氏・児玉党

平姓児玉党

- ・行重と行高の子孫は秩父や平を冠した。
- ・大淵は、行高の子・高重の代に早々に勢力が扶植された場所。
- ・大浜氏は行重系で、「一の谷の合戦」に参陣した行綱の孫・義助が名乗る。



※「桓武平氏諸流系図」、「武蔵七党系図」、「吾妻鏡」等を参考に作成。

○皆野大浜



- 左端：円福寺 将門の弟・将平開基と伝わる。境内には板碑の他、重能、将平の墓と伝わる石塔が残る。
- 中央：将平墓 将平は城峰山に近い石間城で滅ぼされたと伝える。
- 右端：重能墓 重能夫妻の墓とも。重能の伝承を持つ文化財は稀。重能は子の重忠が頼朝に仕えた後も平家方として戦い、後に東国へ帰還したとされる。

○大渚



- ←一貫目遺跡
出土遺構
大渚古墳の隣。薬研堀跡で屋敷の一面の可能性。付近には「屋敷前」の名も残る。



- ↑西光寺石塔群
←平有行板碑
俗名が刻まれた板碑。西光寺に近い正法寺観音堂墓地から出土。

○三沢

本展では取り上げなかったが、本町三沢は町内でも板碑が豊富で、館があったことを偲ばせる地名も残る。ただし、武士の実態は分かっていない。



- ←小根地区 日当たりのよい斜面の一面で「堀之内」と呼ばれる。これは武士の館跡につけられることが多い。同地区は板碑が多く、薬師免と呼ばれる場所もある。



- ←清水苑の板碑 いずれも小根地区の
↑薬師免の板碑 板碑資料。特に清水苑の板碑は秀逸。板碑は
✓蔵骨器



現在の位牌に近いものだが、蔵骨器を伴うこともある。